

令和5年度 上伊那国語研究会

発行：編集幹事

(箕輪中 大杉・辻中)

# 国語教室通信

2023/7/28

第 223 号

令和5年6月7日、上伊那国語教育研究会80周年記念式典をJAフラワーパレスにて開催しました。児童文学作家 いたうみく氏をお招きし、「物語を描くということ」と題してご講演いただきました。先輩の先生方、学校図書館司書の先生方を含む80名を超える先生方にご参会いただき、最後のサイン会に至るまで、大盛況でした。今回はその様子をご報告させていただきます。

神奈川県生まれ。『糸子の体重計』(童心社)でデビューし、日本児童文学者協会新人賞受賞。そのほか日本児童文芸家協会賞、野間児童文芸賞、ひろすけ童話賞、産経児童出版文化賞、河合隼雄物語賞、坪田譲治文学賞を受賞。著書に『かあちゃん取扱説明書』(童心社)、『二日月』(そうえん社)、『つくしちゃんとおねえちゃん』(福音館書店)、「車夫」シリーズ(小峰書店)、「おねえちゃんって」シリーズ(岩崎書店)、『あしたの幸福』(理論社)など多数。「季節風」同人。



冒頭、「演題に『私にとっての』を付けるのが正しいのですが」という言葉から始まった講演会。コロナ渦を経て「当たり前」の大切さに気付かされ、自分にとって「物語を描くということ」がどういふものか考えるきっかけとなったそうです。

## 物語に大事なものは「人」を描くこと

## 物語を描くということは「人」を描くということ



いたう氏が物語を描く際、もとにするプロットなどはないという話にはいささか驚きました。描きながらその登場人物がどういう人なのか、何を考え、どういう行動をとる人なのか、書いたり消したりを重ねるうちに見えてくる。その人がどう生きて、何を選択していくのか。その人の見方、選び方、背負っているもの、守りたいもの、そういうものを描きたいと語ったいたう氏。それをお聞きして、なるほどだからいたう氏の描く人物たちは生き生きとし、親近感のわく人物として、魅力的に映るのだらうと思いました。



**児童文学を「子どもが読むもの」として捉えない**

**児童文学は「子どもから読めるもの」**

児童文学作家になったのは、母となり我が子に物語を描いたのがきっかけだったそうですが、あらためてなぜ児童文学なのか。それは、子供のころの、悲しみやなにかドロツとした言葉にできないような感情を受け止めたい、大人に比べて狭い世界で生きるより他ない子どもの世界に伴走するように寄り添っていきたいという思いがあるからだそうです。

## 一歩でも半歩でも前へ、明日への一歩に

また、物語の結末を考えるとときには「一歩でも半歩でも前へ」「明日への一歩に」が原動力であり、すべての物語の着地点である、そして児童文学のラストが希望のあるものであってほしいという言葉からも、いとう氏の作品が老若男女に愛されている理由が感じられたような気がします。

質疑応答では、参加者の質問に対して大変真摯に答えていただきました。普段の授業の様子や生徒の様子を思い浮かべながら聞いていた方々が多かったことと思います。

「作文を書くとき題名のつけ方に悩む生徒が多いが、作品の題名はどのように決めているのですか」という質問に対して、いとう氏は「それはプロでも迷う」とし、「何を一番言いたかったのか、大事なのはどこなのか、それはどういう言葉に言い換えられるのかということをも自分なりに考えている」と答えてくださいました。

娘を愛せない母と、母に愛されたいと願う娘の話を描いた作品『カーネーション』では、描きたいテーマを象徴するようなものとして「カーネーション」を選んだそうです。質疑応答の時間も興味深いお話を伺うことができ、有意義な時間となりました。



人を描くということ、児童から読めるもの、というのは私たちが授業づくりをするときに大切にすることと共通しているように思います。

私たちが同じ授業を行っているつもりでいても、学ぶ児童生徒によって、授業者によって、教室の様子は変わってきます。いとう氏の言葉を借りれば、授業というのはつまり、私たち授業者と授業で学ぶ生徒たちの関係性から作られるものではないでしょうか。

そして、生徒が自ずと文章を読み、思いを語り合い、書きまとめていくような主体性が発揮されていく姿に、私たち授業者がそっと寄り添うことで、児童生徒は生き生きと学ぶことができる。いとう氏が人を書き、物語を紡いでいくように、私たちも児童生徒を思い描き、授業を作っていく。そこに違いはなく、明日また楽しい授業が作れるはずだと、励まされているようにも感じました。

今年度も上伊那国語教育会での活動が、日々の授業の糧になるよう、先生方と語り合えたらうれしく思います。秋の研修会は10月19日(木)に箕輪中学校で開催します。夏季研修会に続き、山梨大学大学院 茅野政徳先生の講演会もありますので、ぜひご参加ください。